

株式会社市況情報センター (QUICK)のビデオ-II システム

株式会社市況情報センター(略称QUICK)に、ビデオ-Iシステムが設置され、全国の証券会社、機関投資家に対し、東京証券取引所、大阪証券取引所の株価を中心とした各種証券情報のサービスを本格的に開始したのは昭和49年9月で、今日全国の証券会社店頭に約5,400台のビデオディスプレイ装置が置かれ、1日の問合せ回数も540万回を超え、証券会社の日常業務に不可欠となっている。

一方、証券会社の機械化状況では、株式注文約定処理などオンライン化が進められ、大手証券会社では、証券情報システムと結合した総合オンライン化指向のシステム開発が行なわれている。ここでは、より広範囲で、高度に加工された情報を提供するシステムが要求されている。

このようなニーズに応じて、QUICKビデオ-IIシステムが開発され、昭和52年10月、稼動を始めた。

ビデオ-IIシステムは、中央コンピュータ(CC)、地域コンピュータ(RC)及び端末コンピュータ(TC)の各サブシステムで構成される分散処理システムである。

CCは、HITAC M-170を2台使用し、東京証券取引所、大阪証券取引所からの株価情報及び海外の株価情報、証券金融情報、また国内企業の決算情報や各種ニュースなど、あらゆる情報を一



HITAC T-590/11端末システム(TC)のビデオディスプレイとキーボード

元管理し、必要な加工を施しファイルに蓄積するとともに、RCに配信する。

RCはHITAC 8450を2台使用し、CCから送られてくるサービス情報をファイルに蓄積し、端末からのサービス要求に対する応答処理を行なう。

TCは、ユーザー個別の要求に合致したサービス情報の提供を行なうとともに、将来証券会社のコンピュータシステムに接続されて、ユーザー業務処理に対応するため、インテリジェントターミナルとしている。

ビデオ-IIシステムの特長は、大別して次の4点にある。

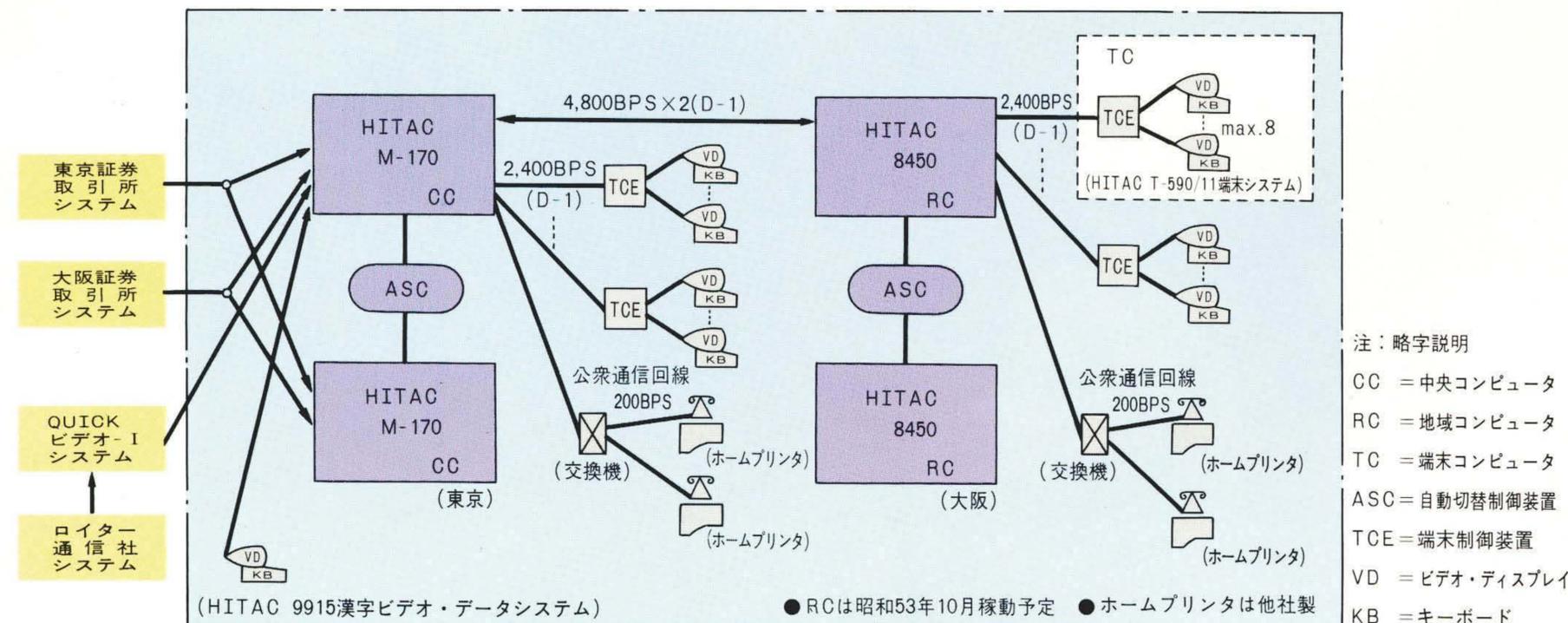
(1)分散処理システムを採用し、三つのサブシステムに機能及び負荷の分散を行なって、システムの信頼性、拡張性の向上を図るとともに、経済的なコンピュータ・ネットワークを実現させている。

(2)ホット・スタン・バイ方式及び自動切替方式を採用し、現用系障害時には自動的に予備系に切り替えられ、システム停止時間の短縮、運用性の向上を図っている。

(3)専用インテリジェントターミナルを採用し、複数のコンピュータシステムとのデータ送受信、及び多種多様な端末の制御をしやすいようにしている。

(4)自動イニシャル・プログラム・ロード(IPL)機能を採用し、TCが運転不能になったとき、センタ(CC, RC)から通信回線を通して、再IPL起動を指令し、一時的な障害を回復させ信頼性の向上を図っている。

ビデオ-IIシステムは、より広範囲でより高度に加工された証券情報をユーザーに提供するとともに、拡張性と柔軟性を備え、新規業務の追加によって、更に質、量が拡大される予定である。



QUICKビデオ-IIシステム構成図